



# マラウイと日本ー「『豊かさ』とは何か』を考えるー

岡山市立岡山後楽館高等学校

担当教科：国語・総合

三宅 典子

◆実践教科：総合「地球の未来」

◆時間数：12時間

◆対象生徒・学年：高校2・3年生

◆対象人数：25人×2クラス

## ココがすばらしい!

マラウイを知ることでどれだけ自分たちが固定観念に囚われているかということを経験を通して生徒自身が考える授業を展開した。

## カリキュラム

### ◆実践の目的

- ・「アフリカ」に対する固定観念に気づく。
- ・マラウイの現状についての理解を深める。
- ・「『豊かさ』とは何か』について考える。

## 授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 ・ 2	世界の格差について知り、発展途上国と私たちのつながりについて考える 富の偏在についての知識を深め、発展途上国と私たちの生活とが密接な関係を持っていることに気づく	(1)ワークショップ 「世界がもし100人の村だったら」 (2)DVD鑑賞 「私たちの暮らしと世界のつながり」	(1)ワークショップ版 「世界がもし100人の村だったら」 (2)DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」
3 ・ 4	「アフリカ」そして「マラウイ」を知る① 1.「アフリカ」に対する固定観念に気づく 2.マラウイについての正しい知識を得る①	(1)ブレーストーミング「アフリカ」 (2)ブレーストーミングで出てきたことを絵で表現し、プレゼンテーション (3)各グループ違う写真でフォトランゲージをした後、プレゼンテーション (4)マラウイの基礎知識	(1)マラウイで収集した写真・物品 (2)パワーポイント
5 ・ 6	「マラウイ」を知る② マラウイについての正しい知識を得る②	(1)青年海外協力隊クイズ (2)青年海外協力隊OV星野由有さんによる講演	(1)パワーポイント (2)講師講演
7 ・ 8	「マラウイ」を知る③ マラウイについての正しい知識を得る③	(1)星野さん講演をふりかえり (2)DVD鑑賞 「Malawi-Country」「Malawi-School」 (3)マラウイの基礎知識 (4)ブレーストーミング 「マラウイについてびっくりしたこと・感心したこと・ちょっとな…と思ったこと」	(1)DVD 「Malawi-Country」 「Malawi-School」 (2)パワーポイント (マラウイの子どものアンケート結果を含む)
9 ・ 10	「豊かさ」とは何か マラウイの生活と日本の生活を比較することによって、「豊かさ」について考える	(1)「日本とマラウイーセカニとショウタの生活」を読んで二つの国の「良いところ」と「問題点」を考える (2)ブレーストーミング「豊かさとは何か」 (3)ランキング「豊かさ」	(1)オリジナルワークシート「日本とマラウイーセカニとショウタの生活」
11 ・ 12	学習のまとめ 学習した内容の整理	(1)項目別のレポート作成	

※ この後、マラウイのことも含んだ「国際協力」の授業を展開する。

## 授業の詳細

### 1・2時限目

世界の格差について知り、発展途上国と私たちのつながりについて考える

#### ①(テニスコートで実施)

アイスブレイキング：人口増加についての「部屋の四隅」  
ワークショップ：「世界がもし100人の村だったら」  
男女比、大陸ごとの人口分布、言語の多様性、識字率、富の格差など

#### ②全員が輪になって座り、「世界がもし100人の村だったら」を一節ずつ朗読

#### ③DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」を鑑賞

#### ④ふりかえりシートの記入

### 生徒の感想

- ・日本人は裕福な位置にいたることがわかったけど、実感がない。でも、貧しい国の人にとっては、私たちがこうやって授業を受けていることさえも裕福だと思っていると考えたら、なんか切なくなる。同じ地球に住んでいるのになんでこんなに違うんだろう。
- ・自分自身が思っている以上に自分は恵まれていると思った。自分は当たり前のように生活環境が整っているうえに、好きなことができるから幸せだと思う。貧しい人は選ぶことすらできず、ただ毎日ギリギリの中で必死に生きているのだと思った。
- ・世界の格差が日本の社会と密接に関わっていることを知ってびっくりした。日本にもやれることはあるんだなと思いました。けれど、それは難しい問題だなと思いました。
- ・日本が輸入に頼っていることが多いため、外国の森林や水などに大きな問題を与えてしまっているんだとわかった。

### 3・4時限目 「アフリカ」そして「マラウイ」を知る①

- ①グループに分かれ、ブレインストーミング「アフリカ」
- ②①でできた「アフリカ」のイメージを絵に表現し、プレゼンテーション
- ③それぞれ違う場面のマラウイの写真から気づくことを各グループで話し合い、プレゼンテーション
- ④パワーポイント（マラウイで収集した写真や、書籍・インターネットから得た知識を編集）を使って、マラウイに関する基礎的な知識や、マラウイで出会った人々のこと、マラウイの人々の生活についての講義（前半）
- ⑤ふりかえりシートの記入



【マラウイの写真でフォトランゲージ】

### 生徒の感想

- ・アフリカというと、まず「暑い」と思ってしまうけど、別に暑いところばかりではないということ。確かに「アフリカ」と一口に言っても、あれだけ広いのだから当然なのだが、先入観からとっさにそうイメージしてしまう。他にもまだまだ、先入観によって実際とは違う認識になっていることはあるわけで、やはり目で見たり、現地を知る人から話を聞く必要などがあることを今日も感じた。
- ・アフリカのイメージが変わった。それから、子どもが死んでしまうのは悲しいと思った。でも、厳しい環境の中で立派に生きて、写真に写っている笑顔を見ると、自分がすごいちっぽけな人間に思えた。

### 5・6時限目 「マラウイ」を知る②

#### ①青年海外協力隊クイズ

JICAのホームページから得たデータをもとに作ったクイズと、マラウイで活動している青年海外協力隊の方々の写真をパワーポイントにして、星野さん登場の事前学習にした。

#### ②9月まで青年海外協力隊員としてマラウイで活動しておられた星野由有さんの講演

#### ③ふりかえりシートの記入



【星野由有さんの講演】

## 生徒の感想

- ・マラウイの人たちは優しい、と私は思いました。だからかわからないけど、話を聞いていると、貧しくて生活も大変なはずなのに、「スゴク楽しそう」「行って見たい」という気持ちになった。
- ・音楽や美術など免許を持っていないものまで教えることになっても、なんとかなったのは、日本の義務教育があったから。今まで何の役にたつかわからないと漠然と思っていた教科があったけれど、「本当に役に立つんだ！ 義務教育って、素晴らしい！」と心から思うことができた。
- ・星野さんはとても努力家だし、勇気があってキラキラしているように思いました。青年海外協力隊に応募したのもとても勇気があることだと思うし、言葉の壁も大きいと思う。でも、どんなに大きな壁でも、ちゃんと乗り越えていて、2年間マラウイの人たちに伝えたかったことを伝えて、目標を達成して帰ってきていて、本当に素晴らしいなと思いました。

## 生徒の感想

- ・マラウイはやはり貧しくて、満足に食事をとれない人たちや病気をしても治すことができずそのまま亡くなっていく人たちがたくさんいました。私は戦後の日本に似ていると感じました。
- ・レストランでは1時間以上待たないと料理が出てこないが、考えてみるとそのほうが普通で、日本のファーストフードのようにすぐ出てくるのがおかしい。その裏では、たくさんの食べ物を廃棄しているのだと気づいた。

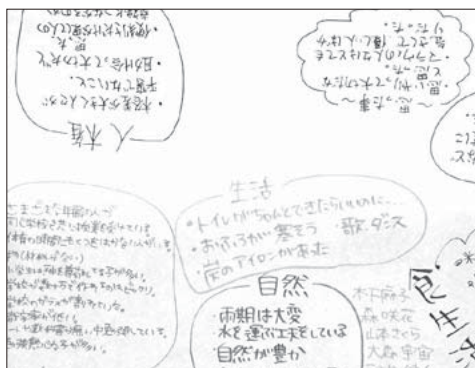


【プレゼンテーションの準備】

- ・マラウイの学生は夢を持って勉強し、向上心が強いと思いました。教科書とかがなくても、授業をくいいるように聞いていて、素晴らしいと思いました。
- ・貧しい国の人々は諦めて、夢とか持たないのになって勝手に想像していたけど、全然そんなことはなくて、いっぱい大きな夢を持っていて、すごいと思った。人のために何かしたいという人が多いので、貧しい中でも助け合えるというのは素晴らしいなと思った。



【プレゼンテーション】



【マラウイの学習のまとめ】

## 7・8時限目 「マラウイ」を知る③

- ①グループに分かれて、星野さんの講演のふりかえり
- ②細田さん編集のDVD「Malawi-Country」と「Malawi-School」を鑑賞
- ③パワーポイント（マラウイで収集した写真やアンケート結果、書籍・インターネットから得た知識を編集）を使って、マラウイに関する基礎的な知識やマラウイで出会った人々のことやマラウイの人々の生活についての講義（後半）
- ④ブレインストーミング「マラウイについてびっくりしたこと・感心したこと・ちょっとな……と思ったこと」
- ⑤④でできたことを模造紙にまとめて、プレゼンテーション
- ⑥ふりかえりシートの記入



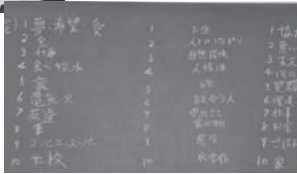
【ブレインストーミング】

## 9・10時限目 「豊かさ」とは何か

- ①グループに分かれて、ワークショップ「日本とマラウイ～セカニとショウタの生活～」(別紙資料)セカニとショウタ二人の少年の生活についての文を読み、2つの国の「良いところ」と「問題点」の部分に、それぞれ違う色の色鉛筆で線をひいていく。
- ②4つのグループで、「マラウイの良いところ」「マラウイの問題点」「日本の良いところ」「日本の問題点」を分担し、模造紙にまとめて、プレゼンテーション
- ③グループで、ブレインストーミング「私たちが幸せになるためには何が必要か」
- ④③で出た内容を1～10にランキングして、黒板に書く。
- ⑤各グループのランキングを比較
- ⑥ふりかえりシートの記入



【「私たちが幸せになるためには何が必要か」ランキング】



### 生徒の感想

- ・幸せって難しい。プレゼンを聞いていると、日本よりもマラウイのほうが幸せそうに感じた。
- ・今日の授業はとても楽しかった。特に、幸せの要素を10書いていくのは、とても個性がでるというか、できあがったのを見て、なかなか興味深かった。
- ・今の私たちは幸せなのに、自分が気づいていないことは、すごく悲しいことです。マラウイの暮らしは貧しいけれど、皆仲良く力をあわせて幸せになろうとする気持ちがよかったです。
- ・豊かになればなるほど、人は大切な「何か」を失ってしまうと思う。それは、人を思いやる心だったり、食べ物に対する感謝の気持ちだったり、めいっぱい外で遊ぶ楽しさだったり。日本は物は豊かで、非常に便利な国だけど、それと同時に、人々の心はとても貧しいと感じるのはなぜだろう。
- ・「豊かさ」とは自分のことだけでなく、他人のことを考えるようになること。心にゆとりがあれば、他の人への感謝や思いやりをもてると思うし、他者への興味を持つことも大切なことだと思う。

## 11・12時限目 学習のまとめ

- ①レポート作成  
いままで学んできたことを、ふりかえり、最後に自分の考えをまとめるような設問を設けた形のレポートを作成

### 成果と課題

生徒の変化は、<生徒の感想>から見ていただきたい。なんとか、「貧しい=かわいそう」「お金がある=幸せ」という固定観念から抜け出すきっかけを、生徒に与えられたのではないかと思う。自分たちの今の生活を振り返ることもできたようだ。

『「貧しくてかわいそう」と思っていたけれど、マラウイの人はみんな笑顔で暮らしていた」という生徒の感想からもうかがえるように、写真や映像の力は大きい。

ただ、「貧しい=かわいそう」から抜け出すことは、不公平や不正を見ないようにすることではない。やっと色々な問題点について学習していくベースまでとどろつけたのだという気がする。

不公平や不正をなくすために、辛くても笑顔で暮らしている人たちと連帯していけるように、学びを深めていくのが次の課題である。この後は、国際協力について学ぶが、マラウイや日本の問題点についての理解を深め、生徒一人一人が未来の社会についてのヴィジョンを持てる展開ができると思う。

### 参考資料

#### 【書籍】

- ・開発教育協会制作(2006)  
「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」  
開発教育協会

#### 【映像】

- ・DVD「私たちの暮らしと世界のつながり」  
関西NGO協議会発行
- ・DVD「Malawi-Country」(細田順子氏提供)
- ・DVD「Malawi-School」(細田順子氏提供)



## 「日本とマラウイ ～セカニとショウタの生活～」

僕は、マラウイ村のセカニです。

13歳で、プライマリーの7年生です。

祖父と祖母、父と母と3人の妹が僕の家族です。

畑で作物を作って暮らしています。畑では、メイズ(主食のトウモロコシ)やカラシナ、たまねぎなどいろいろな作物を作っています。鶏も飼っていますが、ヤギも何匹か、村で共同で飼っています。

昨年からは、乾季に簡単なかんがい設備を作って乾季にも作物が作れるようになったので、ニンニクなども栽培して、父が出稼ぎにいかなくてもよくなりました。かんがい設備は、木や竹、ビニールなどで作ります。ただ、雨季には何メートルも水位が上がるので、かんがい設備は毎年作らなければなりません。

村には電気や水道がないので、乾季にも作物を作って、豊かになったら、ソーラー発電の設備を買いたいと、みんなが話しています。井戸ももう少し便利なものがほしいと言っています。みんなは、マラウイはこれからどんどんよくなっていくと、考えています。やはり昨年から、堆肥を使って化学肥料をできるだけ使わないやり方をためしています。農薬も少なくしたいので、毒性のある植物の葉をまく方法を試しています。わからないこともあって、いろいろ大変ですが、村のリーダーのもと、みんなで力を合わせてがんばっています。僕も、妹の世話をしたり、畑の作業でできることを手伝ったりしています。村には病気の人や障害を持った人もいますが、みんなで助け合って暮らしています。

夕飯は、日がくれてしまわないうちに家族みんなで食べます。家の畑でとれた食べ物を、薪で料理して食べます。僕は、お母さんがメイズから作ってくれるシマト、チキンのシチューが大好きです。ただ、チキンはごちそうなので、めったに食べられないのが残念です。

学校へは歩いて40分くらいかかります。授業のない時は、自分たちで作ったボールを使って、サッカーをしたりして遊びます。女の子たちにはネットボールが人気です。けっこうみんな仲がよくて、みんなと一緒に遊んでいます。

マラウイの学校では、毎年進級のためのテストがあります。ですから、7年生でもいろいろな年齢の人が勉強しています。来年、プライマリーの卒業試験を受けてセカンダリーの選抜に選ばれば、セカンダリースクールへ進むことができます。セカンダリースクールは学校が遠くて通う事ができないので、寮に入らなければなりません。でも僕には夢があるので、一生懸命がんばりたいと思っています。その夢とは、お医者さんになることです。

マラウイではお医者さんが少ないので、ちょっとした病気やけがでもきちんとした治療が受けられなくて、みんな困っています。HIVの治療薬は国が無料で配ってくれるようになりましたが、近くに病院がないために、薬がもらえなくて亡くなる人もいます。僕は、お医者さんになって、マラウイのみんなを助けたいと思います。看護師になりたい人や教師や警官になりたい人もたくさんいます。

僕の家は貧しいですが、セカンダリースクールに合格したら、村でセカンダリーへ通えるように、助けてくれることになっています。

マラウイは貧しいですが、平和で、マラウイ湖や自然保護区などの美しい自然があるので自慢です。

ぼくは、マラウイが大好きです。

僕は、岡山市に住んでいるショウタです。

14歳で中学2年生です。

父と母と妹の4人暮らしです。

父はサラリーマンで母はスーパーでパートタイマーの仕事をしています。父は仕事が忙しいらしく、毎晩遅くなるので、平日は一緒にご飯を食べることもありません。時にはお父さんと話をしたいと思いますが、お父さんはすぐ「勉強をしろ。そうしないと将来困るんだぞ。」と言うので、つい逃げてしまいます。

僕の家はマンションで、同じ階の人とは挨拶ぐらいはしますが、他の家族とはあまりつきあいがありません。

僕はサッカー部に入っているのですが、学校から帰るのが遅いですが、週2回は、その後塾に行っています。塾に行かない日は、30分くらい勉強して、後は自分の部屋でテレビを見たり、コンピュータでゲームをしたりしています。ときどき夜更かしをしてしまって、お母さんにしかられます。

来年になると、高校への受験準備をしなければなりません。将来の職業について、まだ迷っているので、どんな高校へ進学するのも、まだ決まっていません。進路が決まれば、勉強する気が起きるだろうと思いますが、ちょっと不安になりながらも、なかなかその気になれません。なんとかなるだろうという気持ちもどこかにあるような気がします。お父さんやお母さんが「大学には行きなさい。」と言っているのですが、そういうことになるのかなあと思っています。

友だちに「進路どうするの?」と聞いたこともありますが、友だちも「う〜ん。」と言っただけでした。部活の友だちや親しい人とだけしか、こんな話ではできないので、あまり話さない人たちは着実に勉強しているのではないかとちょっと焦りを感じることもあります。

塾に行く日は、部活から直行することも多いので、お金をもらって、コンビニで弁当やハンバーガーなどを買って食べたりします。色々な種類があるので、何を買おうかと楽しみですが、お母さんは「コンビニの弁当やハンバーガーは、どこの国の材料を使っているかわからないのだから、できるだけ家で食べなさい」といいます。お母さんは料理が上手なので、ハンバーグやスパゲティー、シチューなど、とてもおいしいですが、外で食べる食べ物も好きです。

この間、修学旅行があって、沖縄へ行きました。飛行機に乗るのは初めてだったので、離陸が成功したとたん、友だちと一緒に拍手をしてしまいました。沖縄はとても海がきれいでした。海辺は空気もきれいなのか、いつも通っている町の中よりもさわやかな感じがしました。沖縄には、岡山とちょっと違った文化や食べ物があってとてもいいところだと思います。ただ、63年前にあった戦争のことや今も米軍基地が沖縄にたくさんあることはとても残念に思います。

温暖化の問題やワーキングプアの問題などもあって、日本がこれから先どういうふうになるかわかりませんが、ずっと平和であるといいなあと思っています。